

北海道ぎょれん広報

# なみまるくん

[うみ・なかま コミュニケーション]

4

2020  
No.378

北海道  
ぎょれん



特集

ぎょれん中期的事業推進方向と令和2年度事業計画 — 前編 —  
昆布流通に関する懇談会が開催されました

# みきさんの あさかな コラム

札幌で活躍する2人の管理栄養士の方に、旬の魚をテーマとしたコラムを交互にご寄稿頂きます。

## 「甘えび」

私はえびが大好きです。ぷりぷりのえびの食感と甘さ、そして食欲をそそるピンク色のさくさくに揚がったえびカツを自家製のイングリッシュマフィンでサンドしてほおばります。ん、美味。休日の朝の楽しみです。日本人のえび好きは世界の中でもトップクラスだと思いますが、腰が曲がっているえびは長寿を表し、おめでたい食べ物として昔から人気だったからなのかもしれません。

私のえび好きは、小学生の頃、札幌と道内各地の子供たちが夏休みにそれぞれの相手側の家庭で過ごす、交換留学がきっかけです。私が交換留学でお世話になったのは増毛町の小学校の先生のお宅でした。海に歩いて行けるなんて、札幌郊外の住宅地に育った私には夢のような日々だったのを今でも鮮明に覚えています。

朝食のお味噌汁は甘えびの身がたっぷり。出汁はもちろんえびの頭で取った濃厚なものでした。えびのお味噌汁なんて、小学生だった私には想像もできないものでした。滞在していた数

週間では甘えびのお刺身、かき揚げなどをごちそうになりました。札幌に帰ってきても母に作ってとねだり困らせたものです。

いま食育に関連して「舌にある、味覚を感じるセンサーの味蕾の数のピークは八〜十二歳です」とお話することがあります。その頃までに色々な食経験をすることによって、食に対する見方や考え方に影響を及ぼすともいわれています。私が増毛町に交換留学で過ごしたのも小学三年生ですから、この甘えび経験が今のえび好きにつながっているのでしょうか。

甘えびの甘さの秘密はあのとろみにあります。餌を分解するために持ったたんぱく質分解酵素が死後自らの筋肉を自己消化してできたもので、このとろみが甘さを引き立てる役割をしています。水揚げ直後から一日経った頃に甘みが強くなるのはこのためだったのですね。

栄養的には高たんぱく低脂肪というのによく知られています。えびに含まれる赤い色素のアスタキサンチンには活性酸素

を抑制する効果があり、殻に含まれるキチン、キトサンは動物性食物繊維として便秘を防止したり、血圧上昇を防いだりするので、効果も期待されているので殻ごと唐揚げにしていたら、くのもいいですね。

甘えびたっぷりのお味噌汁はなかなか我が家の食卓には上がりませんが、甘えびの殻でだしをとったお味噌汁は時々登場します。さらに甘えびのお刺身を肴に増毛町の地酒を飲むのが、あの甘えび体験から数十年経った私の今の姿かな(笑)



**坂下 美樹**  
管理栄養士/調理師/製菓衛生師/  
フードコーディネーター  
現在、北海道新聞くらし面「今日の1品」執筆中。「道新文化教室」開催。道新ポケットブック、ホクレンGREEN等の料理制作など。昨年8月に料理教室を移転オープン。ぎょれんと共にレシピの制作多数。

[うみ・なまかま コミュニケーション]

# なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌  
Hokkaido Gyoren Magazine  
April 2020 No.378



01 みきさんのおさかなコラム  
「甘えび」

02 特集1  
ぎょれん中期的事業推進方向と  
令和2年度事業計画 - 前編 -

10 浜の家族物語  
南かやべ漁協/高谷 恵太さん ご家族

11 頭すっきり!! ブレイクタイム

12 特集2  
昆布漁業振興協会役員と消費地業者との  
昆布流通に関する懇談会が開催されました

14 特集3  
北見支店が移転しました

15 なみまるインフォメーション

16 大漁祈願!  
浜のほっとニュース

17 みなさんのお便りでつくるページ  
なみまる おたより箱



春を待つ大舟漁港(函館市)

表紙の写真  
南かやべ漁協/高谷 恵太さんご家族です。

特集  
SPECIAL

ぎよれん中期的事業推進方向と  
令和2年度事業計画 -前編-



ぎよれん 菊池副会長

令和2年度が始まりました。今月と来月の2号にわたり、ぎよれんの「中期的事業推進方向」と「令和2年度事業計画」をご紹介します。

各計画のうち、今月は中期的事業推進方向と、令和2年度事業計画のうち、漁政対策、指導・教育事業、漁業環境保全対策事業、販売事業(全体方針及び秋鮭)を、来月は「令和2年度事業計画-後編-」として、販売事業のうち、ほたて・昆布・鮮魚に関する事業と、末端加工製品、食の安全・安心対策、宣伝販促・食育事業、購買事業、経営体制の計画をご紹介します。

中期的事業推進方向の  
基本的考え方

ぎよれんは、「水産王国北海道の復活」を基本方針とした中期的事業推進方向を策定し、平成29年度から3か年計画で、会員と一丸となって各種事業を推進してきました。

この間、本道は海況の変化に加え、度重なる台風・大型低気圧の直撃など、かつて経験したことがない様々な自然災害により、漁業資源や各種漁業施設に甚大な被害を受けるなど、自然環境の変化が本道漁業を襲っています。

こうしたなか、北海道漁業は平成30年・31年にかろうじて100万トン台を確保したものの、秋鮭や昆布、さんま、いかなどの基幹魚種が歴史的な大不漁となるなど、多くの魚種で資源量は低水準に止まり、漁家・漁協経営のみならず、水産加工業をはじめとした関連業界においても、極めて厳しい状況が続きます。北海道の浜は未曾有の危機に直面しています。

消費流通面においては、国内人口の減少や消費税増税による経済の減速もあり、国内市場の縮小に歯止めがかからず、国内販売は大変厳しい状況が続いています。

海外輸出についても、長引く香港の混乱や米中貿易摩擦など、海外マーケットの不安定さが浮き彫りになっています。

関連事業として、廃網の再資源化を推進し、工口包装資材の開発や廃プラスチックのリサイクル推進など、環境負荷の低減に関する取組を推進します。

以上、次期3か年間の各種事業推進にあたっては、指導・経済事業連合会として、浜の負託に任せ、「浜から頼られる」系統組織であり続けるため、環境の変化に対応した収益構造の確立や事業再編、生産性の向上等を図り、盤石な経営体制を再構築することとします。

加えて、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症拡大については、国内外に様々な影響を及ぼしているなか、その人的・経済的な動向を注視するとともに、想定外のリスクに対する組織的な危機管理が求められています。

「水産政策の改革」については、漁業の成長産業化に向けて、漁業法が70年振りに改正され、令和2年には新法が施行されるなか、資源管理など制度運用面の不安払拭、必要な予算の確保に加え、次期水産基本計画(2022年度)への対応など水産政策に関しても大きな課題があります。

さらには、地球規模での海洋環境の変化、海洋プラスチックごみによる海洋汚染など、次々と新たな課題がクローズアップされるなか、漁業環境保全対策は、従前にも増して重要性が高まっています。

このように、本道を取り巻く環境は依然として厳しく、大きく変化していきながら、本道漁業の持続的発展と活性化を図りつつ、道産水産物の安定供給体制確立に向け、令和2年度からの中期的事業推進方向の基本方針を「夢と活力ある北海道漁業の再興」と定め、様々な課題の解決に向けて、組織を挙げて取り組むこととします。

指導事業については、国の水産政策の改革における本道漁業の実態に即した漁業管理体制の構築と資源管理・増大対策を関係団体と

連携しながら進めるとともに、担い手・後継者対策や漁業者の設備投資支援策の拡充など、漁業経営基盤強化の取組を進めます。

河川・海洋環境保全対策については、美しい海と海洋生物を守り続けるために、取組をさらに強化します。

販売事業については、国内流通対策を基軸として、漁協・関連会社・協力会社との組織的な連携のもと、安全・安心対策に万全を期しつつ、消費者ニーズに対応した高次加工・高付加価値加工を行うとともに、多様化するマーケットに対応した商品開発機能及び販売体制を構築します。また、販売戦略と連動したなかで、消費者の嗜好、ライフスタイルに則した効果的な販促活動とともに、食育をはじめとした魚食普及活動の充実により一層の消費拡大を目指します。

輸出においては、既存販売先との取組強化を図るとともに、品目別戦略に基づく新たな販売ルートの開拓に取り組みます。

鮮魚流通対策については、浜と連携した加工・冷凍・流通体制の拡充を図り、魚価と流通の安定に向けた取組を推進します。

新型コロナウイルスの感染拡大対策として、魚価下落や消費流通の停滞を想定した様々な対応を実施します。

購買事業については、系統ブランド資材の普及による漁業資材コストの低減化、系統燃油事業の更なる強化を行うとともに、環境



○流通

1. 国内販売対策

- (1) 会員及び重点取引先との関係強化による安定した集荷体制の構築
- (2) 多様化するマーケットに対応した商品開発機能及び販売体制の強化
- (3) 販売戦略と連動した効果的な販促活動の実施

2. 輸出対策

- (1) 会員、関連会社一体となった輸出機能の強化
- (2) 既存販売先との取組強化
- (3) 品目別戦略に基づく新たな販売ルートの開拓
- (4) 輸出リスク(為替・与信管理)管理体制の強化
- (5) 円滑な輸出手続き実現に向けた行政との連携強化

購買部門

○漁網網

1. 系統ブランド資材の普及による漁業資材コストの低減化

- (1) 浜の営漁コスト削減のための系統ブランド資材の品目の拡充
- (2) 系統ブランド資材評価推進委員会、各種部会等における普及活動の強化
- (3) 研修会やメーカー視察等実施による商品紹介を通じた販売力の強化

○石油製品

1. 系統燃油事業の更なる強化

- (1) 安定供給体制の維持と適正価格での供給に向けた取組強化
- (2) 共有燃油施設再編整備計画に基づく整備実施と検証

○一般資材

1. 環境負荷の低減に対する取組

- (1) エコ包装資材の開発と普及推進
- (2) 廃プラスチックのリサイクル推進

○その他機器

1. 漁業省力化機器の開発による営漁コストの削減

- (1) 漁協及び関連メーカー等との連携による省力化機器開発と補助事業等を活用した普及推進

経営重点方針

○経営基盤強化

1. 経営体制の強化

- (1) 環境変化に対応した収益構造の確立
- (2) 将来を見据えた戦略的な投資の選択と集中
- (3) 情報技術を活用した事務合理化の推進
- (4) 経営リスクマネジメントの継続強化
- (5) 本会グループ一体での効率的な経営を目的とした事業再編
- (6) コンプライアンス(法令順守)経営の更なる強化

○組織力強化

1. 人材の育成・活用

- (1) 人づくりに重点をおいた人材力強化への各種取組
- (2) 働き方改革や定年延長等、雇用環境の変化を見据えた人事制度の構築
- (3) 本会グループ一体での競争力強化に向けた効果的な人員配置

中期的事業推進方向(令和2年度~令和4年度)

基本方針『夢と活力ある北海道漁業の再興』

- 浜の生産力回復に向けた取組
- 取り巻く環境変化に対応した本会事業経営の再構築
- 漁業振興に不可欠な環境保全等 諸対策の強化
- 新型コロナウイルスの感染被害に対する的確かつ迅速な対応

部門別重点方針

指導部門

○漁政

1. 国の水産政策の改革における本道漁業の実態に即した漁業管理体制の構築と資源管理・増大対策

- (1) 本道漁業の実態に即した水産政策の推進に向けた対応
- (2) 本道漁業者が主体的に取り組む資源管理体制の推進
- (3) 資源と漁場に見合った操業体制構築に向けた取組

2. 漁業後継者が着実に漁業を引き継ぐことができる経営基盤強化のための取組強化

- (1) 担い手・後継者対策の取組の拡充強化
- (2) 漁業経営基盤強化のための計画的設備投資、所得向上、コスト削減経営基盤強化のための取組強化
- (3) 漁村地域活性化に向けた漁業振興の取組推進

3. 新型コロナウイルスの感染被害に対する的確かつ迅速な対応

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大における景気後退、魚価の下落など北海道水産業への被害に対する迅速な国・道への支援要請の実施
- (2) 減退した消費回復に向けたオール北海道での情報発信及び販促活動に対する支援要請

○指導教育

1. 漁協経営の適正化及び浜の人材育成への取組の継続強化

- (1) 漁協役員への人材育成および組合内部教育体制構築への側面支援
- (2) 漁協経営指導の充実と全国監査機構を通じた経営指導の継続
- (3) 漁協経営健全化事業の継続実施

○環境

1. 漁業環境保全対策の強化

- (1) 河川・海洋環境保全対策の強化
- (2) 海洋プラスチック対策の推進
- (3) 実効性のある有害生物対策の推進
- (4) 森林環境保全対策の拡充強化

販売部門

○市場

1. 安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充

- (1) 鮮魚流通対策の拡充
- (2) 地域基幹魚種対策の推進
- (3) 道と連携した市場衛生管理体制の継続・強化

○加工

1. 漁協・協力会社・関連会社との組織的連携による加工機能強化

- (1) 漁協工場・協力会社・関連会社との組織的連携による機能の強化
- (2) 安定的な稼働体制の確保に向けた諸対策の拡充
- (3) 消費者ニーズに対応した高次加工・高付加価値加工体制の強化
- (4) 品質・生産管理体制の更なる強化
- (5) 突発的水揚に対応できる鮮魚加工流通体制の維持

# 令和2年度事業計画

## 指導事業について

### 1. 漁政対策

本道漁業における漁獲量は近年100万トンを下回る年もあるなど、水産資源の減少傾向が顕著となっています。特に、昨年は本道を代表する秋鮭が事前の試験研究機関の予測から大きく下振れしたほか、昆布、さんま、いか等の基幹魚種が、過去に例をみないほどの大減産となり、本道漁業は広範囲にわたって地盤沈下を余儀なくされ、立て直しに向けては資源の回復・増大が喫緊の課題となっています。

加えて、漁業者の減少や高齢化、人口減少に伴う漁村地域の衰退、漁業生産設備の老朽化といった構造的な問題のほか、水産政策の改革に伴う新たな対応、地政学的リスク増大による燃油高騰や貿易問題、さらには相次ぐ自然災害などによる漁業被害の発生など、漁業経営を取り巻く課題は山積しています。

こうした環境下、本年度の漁政対策の推進にあたっては、水産資源の回復と増大対策を最重要課題と位置付けるとともに、漁業経営の安定、漁村の振興、漁場環境の保全等の取組を通じて、「夢と活力ある北海道漁業の再興」に向けた施策の実現を図っていくものとします。

### (1) 水産資源の回復・増大に向けた取組の推進

これらを踏まえ、限られた人的資源のもとで安定した組合経営を維持、継続するため、法改正等への対応支援と人材育成支援に重点をおいた取組を行うとともに、協同への意識醸成を深め協同組合運動の大切さを周知する取組を継続します。

### (1) 漁協役職員の人材育成支援と、組合員・役職員に対する協同組合意識醸成に向けた活動支援

- ① 中期研修計画（平成31年度～令和3年度）に基づく役職員研修の実施
- ② 実務に直結した職員研修内容の充実
- ③ 漁協役職員による内部研修実施に向けた支援の実施
- ④ 全道協力組織（青年部、職員協議会、漁業士会等）の事業活動を通じたリーダー及び人材育成活動の継続
- ⑤ 漁協における協同組合運動啓発活動への支援（啓発資料提供等）

### (2) 新たな諸制度への対応に向けた経営指導の充実

- ① 労働関係法制度に係る情報提供と実務指導の実施
- ② 民法改正や税制改正等に関する情報提供と実務指導の実施

### (3) 漁協経営の適正化向上に向けた経営指導の充実

- ① JF全国監査機構による監査を通じた改善指導の継続実施

- ① 栽培漁業・増養殖事業における実効性ある施策実現および予算確保に向けた取組
- ② 資源減少要因の早期究明に不可欠な調査研究体制の拡充強化に向けた取組
- ③ ほっけ、助宗だら等、新たな資源管理に對する本道漁業の実態に即した措置の実現に向けた取組
- ④ くるまぐろの漁獲枠確保と漁業者への支援策実現に向けた取組
- ⑤ 持続可能な資源管理の実現に向けた操業体制の構築

### (2) 漁業経営安定化に向けた取組の強化

- ① 担い手・後継者対策の取組強化
- ② 外国人材活用に向けた制度改善と道域監理体制強化に向けた取組推進
- ③ 漁業者の設備投資（漁船・漁具・機器・施設等）に係る支援策の拡充強化に向けた取組
- ④ 減収著しい栽培魚種に対する実効性ある要件の見直し等、漁業収入安定対策の施策強化に向けた取組
- ⑤ 国の施策に伴う水揚げ減少の影響を受ける漁協経営に対する支援策実現に向けた取組
- ⑥ セーフティネット事業等、漁業経営コスト削減に向けた取組推進

### (3) 漁村振興及び漁場環境保全に係る取組の実施

- ① 漁村振興に向けた水産業多面的機能発揮対策等の拡充強化に向けた取組推進

### (4) 漁協経営健全化指導の継続実施

- ① 経営健全化が課題となっている漁協に対し、漁協経営強化推進本部を通じた重点的指導、支援
- ② 漁協内部監査の定着に向けた担当者の育成指導
- ③ 法令規程等遵守に向けた実務指導の実施



漁協新任役員研修

### 3. 漁業環境保全対策

トドやザラボヤなど有害生物による漁業被害軽減に向けた取組を強化するとともに、自然災害による被害未然防止を図るため、流木発生抑止対策の実現に向けた取組を更に強化し、併せて処理対策事業の予算拡充を強く求め、効果的な活用を推し進めます。

また、家畜排せつ物や農薬類、事業場排水など河川環境を脅かす様々な課題が顕在化している実情を踏まえ、河川への流出防止対策

- ② 自然災害リスク等に対する防災対策（台風・流木対策、福島第一原発事故対策等）の取組
- ③ 有害生物被害対策事業の予算拡充及び漁業生産を阻害する未指定生物に対する支援策実現に向けた取組

### (4) 水産物貿易自由化に対する対応

- ① 貿易自由化交渉の進展に対する本道漁業への影響回避に向けた取組



吉川農林水産大臣(当時)への要請

### 2. 指導・教育事業

水産政策の改革による関連法の改正や制度変更に伴い、漁協の事務負担増が想定されるとともに役職員に求められるスキルの高度化が求められています。これに加え働き方改革に伴う労働時間管理、休日取得管理の厳格化が進んでおり、法に基づく労働環境整備への対応も求められています。

の更なる強化を図るとともに、海洋環境保全においては、「洋上風力発電」「海洋プラスチック問題」を喫緊の課題として情報収集と対応に努め、漁業者が後世に亘って安心して生産活動に取り組める漁場環境づくりに向けての基盤強化を図っていきます。

### (1) 海獣類等有害生物による漁業被害防止対策の強化

- ① トドによる漁業被害軽減対策の継続対応
- ② ザラボヤによる漁業被害軽減に向けた対応の強化
- ③ アザラシ類による漁業被害防止及び軽減対策の実現に向けた取組
- ④ オットセイ等の被害軽減対策の確立に向けた科学的知見の収集

### (2) 河川・海洋環境保全対策の取組強化

- ① 流木・漂流ごみ対策
  - ア. 各地区の河川実態を踏まえた流木発生抑止対策の推進
  - イ. 流木処理に係る事業予算拡充に向けた取組
  - ウ. 漂流ごみの回収・処理費用にかかる予算拡充対応の強化
- ② 農業関連対策
  - ア. 害虫防除に係る農薬類の流出防止と農地崩落対策の協議対応強化
  - イ. 養豚ほか大規模畜産施設建設の早期掌握と排水処理対策の継続強化
  - ウ. 農業関係団体との協議を通じた家畜排せつ物問題等諸課題対応の推進

1. 秋鮭

昨年の道内秋鮭の水揚げは、漁期序盤は前年並みで推移したものの、10月以降は近年になく低調に推移したことから、最終的に数量は40年振りの大不漁となる4万5千トンとなりました。平均単価は生鮮需要に支えられたものの、製品在庫の滞留による市況低迷の影響から5280円/kgと下方修正されています。

製品の状況は、親・魚卵製品ともに価格は修正されたものの、特に親製品は2年続いた高値の影響で売場が縮小しており、消費の回復が課題となっています。魚卵製品は生産量が大きく減少したことから、フリー在庫は少ない状況となっていますが、海外製品に売場を席巻されないよう注視していく必要があります。

一方で世界の鮭鱒供給は、ロシア鱒が2年連続で豊漁となったことに加え、養殖サーモンが増産されたことから、相場が下落し、昨



流木による漁具被害は全道で深刻

- ③ 海洋環境保全対策
  - ア. 海洋プラスチックごみによる海洋汚染防止に向けた対応
  - イ. 洋上風力発電開発に係る広域的な協議による対応の強化
  - ウ. 海域に加え、陸域からの油流出事故未然防止対策の推進
- ④ 大規模インフラ整備対策
  - ア. 新幹線トンネル工事に係る湧水や土砂受入地、有害物質対策の継続と共用開始後対策の強化
  - イ. 橋梁架替え、高規格道路建設や既存インフラの大規模修繕等による河川環境への影響回避に向けた協議推進
- ⑤ 工事計画等協議対策
  - ア. 各種工事計画の早期掌握と管内一体となった効果的な事前協議対応の強化
  - イ. 監視活動の強化による土砂や濁水流出防止に向けた対応

## 販売事業について

- (3) 森林環境保全対策の推進
  - ① 植樹活動の更なる啓発推進
  - ② 「お魚殖やす植樹運動」の推進のための活動資金確保に向けた継続対応

昨年の水揚げは107万トンと、一昨年に続いて100万トンを超えたものの、秋鮭、昆布、さんま、いか等、基幹魚種の水揚げ不振が続いており金額的には382億円の減少となりました。

流通面においても加工コストの増加や人手不足などの諸問題が顕在化し、生産、加工、流通、販売といったあらゆる局面で厳しい環境が続いています。

国内マーケットは縮小傾向が続き、高齢化の進行や食嗜好の変化等、ニーズにあった商品開発力の強化が課題となっています。また、堅調であった海外輸出も、国際情勢の不安定化や突発的に発生する新型肺炎といったカントリーリスクが経済活動への障壁となっています。

このような環境下、国内外ともに北海道水産品の販路拡大に向け、高品質・安全安心を訴求した認知度向上、加えて消費喚起に向けた各種流通・宣伝・販促事業を展開してまいります。

- (1) 市場
  - 安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充
  - ① 加工・冷凍・流通体制の拡充による魚価及び流通の安定に向けた取組推進

年以降大量に日本国内に搬入されています。今後、秋鮭の水揚げが回復し、需給バランスの均衡が崩れた際には、浜値の大幅な下落を招くことも想定されます。

このため、今年度においても、秋鮭の消流安定を図るためには、取り巻く環境変化を的確に捉え、秋鮭流通対策協議会と連携した施策を継続して実施し、国内、海外における秋鮭製品の消費回復に向けた取組を計画的に推進してまいります。

- (1) 生鮮対策
  - ① 旬期消費の拡大を目的とした、生フィッシュ・生筋子の販売強化
  - ② 水揚げ状況に連動した生産・販売体制の整備

## (2) 国内対策

- ① 冷凍フィレ・定塩フィレ製品の消費回復に向けた販売強化
- ② 顧客ニーズを取入れた製造による販路開拓と、需要の掘り起し
- ③ 高次加工品（骨取り製品、即食、切身等）の商品開発並びに販路拡充
- ④ 顧客の要望に対応する国内・海外加工の継続
- ⑤ 消費の回復に向けた全国的な販促の拡充

## 〈魚卵製品〉

- ① 重要販売先との取組強化と継続（量販、業務筋）
- ② 需要の高い業態をターゲットとした販路の再構築（外食、中食）

## (2) 加工

- 漁協・協力会社・関連会社との組織的連携による加工機能強化
- ① 国内外の製造環境、消費環境の変化へ対応した付加価値商品の開発強化
- ② 品質・衛生管理向上等、安全・安心対策に万全を期す取組の継続強化
- ③ 変化する水揚げに即応できる浜と連携した加工体制の拡充

## (3) 流通

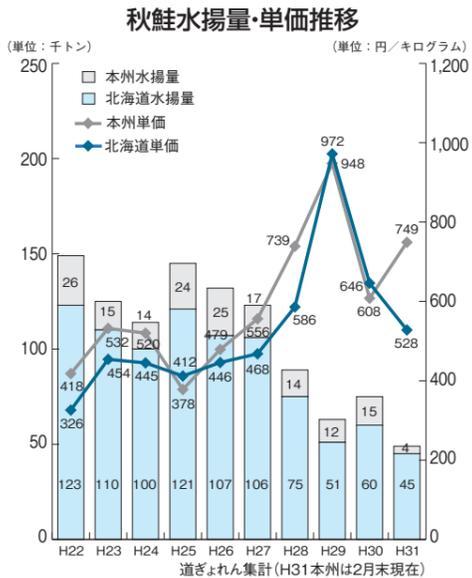
- ① 国内販売対策
  - ア. 会員及び重点取引先との関係強化による安定した集荷・供給体制の構築
  - イ. 高付加価値製品の開発・供給による北海道産品の更なる価値向上
  - ウ. 各業態に適した商品開発による販路の強化
- ② 輸出対策
  - ア. 会員、関連会社一体となった輸出機能強化
  - イ. 既存販売ルートの強化及び新規販売ルートの開拓
  - ウ. 輸出環境整備を目的とした行政との連携強化

## (3) 輸出対策

- ① 水揚げ回復時を見据えた原料輸出先の取組継続（中国、台湾、タイ）
- ② 中国内需をターゲットとした製品販売の強化
- ③ 東南アジアマーケットへの製品販路の確立と販売強化
- ④ 海外での高次加工による製品競争力の向上と国内外の市場開拓

## (4) その他

- ① 水産工コラベル（MEL）認証の認知向上と関係機関との連携強化
- ② MEL認証製品の製造体制の拡充と、製品販売強化
- ③ 輸出環境整備に向けた行政との連携強化



# シークワードクイズ 4月のテーマ 「色」

ヤ	ロ	バ	シ	ナ	チ	ク
チ	ニ	シ	ハ	ン	リ	ハ
ビ	ユ	ス	ン	ド	ト	コ
エ	ウ	ナ	ミ	バ	ウ	コ
リ	ハ	ヨ	マ	ズ	シ	オ
マ	ク	ヤ	キ	デ	シ	ハ
ナ	ア	ラ	ナ	キ	イ	ケ

4月は色がテーマです。日本の伝統色は聞いたこともないような色がたくさんありますね。  
図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読める様になっています。  
どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

## リスト

- アマ(亜麻色)
- ウスハナ(薄花色)
- エビチャ(海老茶色)
- オウド(黄土色)
- キキヨウ(桔梗色)
- クチナシ(梔子色)
- ケシズミ(消し炭色)
- コハク(琥珀色)
- シロ(白色)
- シンバシ(新橋色)
- スナ(砂色)
- ナデシコ(撫子色)
- ナマリ(鉛色)
- ナンド(納戸色)
- ニビ(鈍色)
- ニユウハク(乳白色/にゅうはくしよく)
- ハイ(灰色)
- ハトバ(鳩羽色)
- ミドリ(緑色)
- ヤマバト(山鳩色)

〈ヒント〉「〇〇色の人生」という言葉がドラマや歌の名前によく使われています。

## 解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえたと答え(魚の名前)になります。

### 例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

リスト

- アキアジ
- コマイ
- プリ
- サンマ
- コンプ
- アサリ

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

〈解答〉サバ

どれにも使用しなかった文字をうまく並べてください。

解答  となります。

くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

3月号の解答と当選者

カ	ク	ウ	コ	モ		
キ	ツ	イ	モ	ウ	シ	
ゼ	ラ	メ	サ	リ	キ	ウ
タ	カ	ナ	ミ	ウ	ヨ	ヒ
ツ	カ	ミ	ナ	リ	ク	モ
マン	シ	ウ	ダ	ヤ	ギ	
キ	シ	ロ	オ	キ	レ	ナ

当選者

- (福島町) 新山 碧さん
- (厚岸町) 佐藤 葉子さん
- (浜中町) 長内 みささん
- (湧別町) 齊藤 啓太さん
- (利尻富士町) 藤原 基子さん

## 間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5か所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17ページにあります。

表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。

## 今月の家族物語



【高谷さんご一家】 高谷 恵太さん(28歳)、汐里さん(26歳)、汰皇くん(1歳)

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介いたします。今回は、南かやべ漁協の高谷さんご一家です。

### 養殖昆布のオーナー制度を広めたい

両親、兄と昆布養殖を行う傍ら、冬にはうにやなまこの採取している恵太さん。  
高校生になったときには漁師になろうと思っていた恵太さんは、在学中に船舶免許を取得したそう。「卒業した南かやべ高校では、修学旅行で大阪に行くときに漁師になりそうな人は昆布問屋を訪問するんですよ。昆布だしを使ったたこ焼きを作って食べましたね」と昆布生産地の高校ならではの思い出を教えてくださいました。  
南かやべ漁協青年部では、15年ほど前から養殖昆布のオーナー募集を行っているそう。1口あたり5mのロープで育つ養殖昆布のオーナーとなり、春と秋に昆布製品が届けられるこの取り組みには全国から申し込みがあります。今の課題は、若い世代の顧客を増やすこと。より多くの人から申し込みが来よう、PRをしていきたいそうです。

### いい昆布を作ることを常に考える

病院の栄養士をしている汐里さん。祖父が昆布漁を営んでおり、小学校の頃まではお手伝いをしていたそうです。「今は子どもの離乳食にも昆布を使っていますよ」と教えてくださいました。  
3月に1歳の誕生日を迎えたばかりの汰皇くんは恵太さんの父 富之さんが大好き。もちろん、富之さんも汰皇くんがかわいくてしょうがなく、ずっと遊んでいられるようです。  
恵太さんは「時化の時には影響が出ないように工夫したりしていますが、やっぱり、いい昆布を作ることを常に考えているし、作っていきたいです」と新年度の目標を話してくれました。





## 昆布漁業振興協会役員と消費地業者との 昆布流通に関する懇談会が開催されました

1月30日（木）、神戸にて消費地の大手昆布問屋・大手メーカーと、昆布漁業振興協会役員が参加した昆布流通に関する懇談会が行われました。難しい課題を抱えた案件もありましたが、今後、より良い昆布生産・流通とするため、双方活発な意見交換がなされました。

### ○全道的な昆布生産の減少による流通への影響について

#### 【消費地業者】

- ・スーパーでは年末のだし昆布の売場が激減したように、減産による影響は顕著である。
- ・業務筋に関しては中国産へシフトしている。中国産で昆布巻、一口巻きを製造するメーカーも増えてきている。
- ・全体的な消費としては、北海道産の減産分は中国産で少しカバーしているという印象がある。

### ○生産量の減少している現状や増産に対する考え方

#### 【消費地業者】

- ・道産昆布の減産に危機感を抱いている。要因には生産者の減少が多分に影響しているのではないかと。
- ・漁師が減らない工夫あるいは方策や、昆布の規格を緩和するなど、生産現場の改革も必要。
- ・乾燥や加工など生産者が負担となる作業に関しては消費地業者の参画も検討してはどうか。
- ・今何をすべきか考える必要がある。天然はどのように増やせるのか。天然が難しいのであれば養殖を増産させることも考える。養殖先進国である中国の方法も参考にしたいと思う。

#### 【昆布振興協会】

- ・乾燥、選葉の作業が困難になっているのは事実である。
- ・また漁業を継がない生産者の子息も増えており、

### ○規格の簡素化について

#### 【消費地業者】

- ・加工する製品が佃煮であれば、原料の段階では
- ・一方で養殖は、現実的に漁場がない、波が荒い等、地域によってさまざまな問題がある。
- ・養殖も視野に入れるべきと考える。今の養殖方法で昆布を増やすことを考える。まずは種をどう増やしていけば良いか、そのためには技術的にどうしていけば良いかを考えるべき。

まずはこの状況から脱却しなければならぬ。組合が生昆布を買い、組合が乾燥機を使って作業を行う、という新たな流れも必要。またそれに応じて規格を簡素化して消費地へ販売する事も必要。

- ・現状の細かい規格は必要ない。
- ・簡素化を求める意見が多く、改めて進めていく必要がある。
- ・ただ、規格の簡素化は消費地側からの発信では実施できない。組合側が発信すべき案件と考える。これによって生産量が増えるかどうかはわからないが、進めるべきだと思う。
- ・無差別でも良いと考えている。一方で浜では銘柄や地区ごとに様々な事情があり、意見がまとまらないのが実態だと思う。
- ・規格変更については、後継者が増えるのであれば早急に行ってほしい。漁師がいなくなったら昆布はなくなってしまう。

#### 【昆布振興協会】

- ・近年は元揃を作らず、手間のかからない加工用（棒）の生産が増えてくる。多少安くなくても、極力早く他の漁業に切り替えたいと考える生産者も増えている。
- ・必要な規格を作るべきである。以前は等級を細かくしなければ売れない時期もあったが、時代はもう変わっている。
- ・簡素化は手間がかからなくなるため、若い人が昆布を採りに行くことと思いかもされない。後継者が残る可能性もある。
- ・等級選別にこだわっている漁業者も存在する。
- ・再度浜に等級を少なくしようという声掛けをするべき。選別して一本でも高く売りたい生産者がいるならば、それはそれで共同値決し共販すれば良い。等級を減らしても問題がないメーカーへは、ぎよれんから直接売れば良い。
- ・簡素化に対し浜が心配しているのは、消費地側から、その規格ではダメだ、その規格では価格を下げる...などと言われてしまうことを恐れている。

### ○販売方法について

#### 【消費地業者】

- ・販売方法を考えることも大事だと思う。減産が続くなか、随契を増やし問屋からメーカーへの販売ルートを引き続き確保したほうが消流としては安定すると思う。
- ・規格が簡素化され減ったとしても、問屋としての分配機能は引き続き行うべきである。
- ・加工メーカーが必要な昆布は、上から下からまでのフルアソートではない。また一つの規格だけをメーカーに供給することも難しい。
- ・量産地は入札は難しいのではないかと、随契を考えた方が良い。

#### 【昆布振興協会】

- ・一駄でも高く売りたいという気持ちもある。それはそれで、今まで通り製品化すれば良い。値決会があるので、そこで売ればいい。
- ・一方、現在のような等級に分けなくてもよい、あるいは分けたくないという者もある。この場合は、入札か随契にして販売する方法もある。
- ・今後、選別の方法が変われば、今の値決スタイルも変わってくると考える。
- ・入札を考えた場合、買える業者は好きな価格で買っていくため価格はどんどん上がるが、その価格ではメーカーが加工できない可能性がある。そうなれば、加工する昆布が減り、今作っている製品も変わってくるのではないかと。
- ・随契も検討の余地はあるが、既存の販売先に対し明日から荷割がないという事も起き、そのような事も考慮しなければならぬ。
- ・昆布をきちんと消費していくことを考えると、一定量に関しては、決まった銘柄・規格をずっと使用する業者には、継続的に買って頂きたい。製品を作り続けてもらいたい。

今般、消費地業者との懇談会を実施し、様々な意見交換を行いました。乗り越えなければならぬ課題は多いですが、振興協会・ぎよれんが連携し、生産振興に努めてまいります。



北海道ぎよれん 本田常務

### ●懇談会出席者 ※敬称略

#### 消費地業者

兵庫昆布海産(株)	代表取締役社長	中山 俊
(株)西兵庫	代表取締役社長	大西 智明
ヒロコンフーズ(株)	代表取締役社長	田村 満則
(株)マルヤナギ小倉屋	代表取締役副社長	柳本 勇治
フジッコ(株)	常務取締役	籠谷 一徳
(株)くらこん	執行役員	嘉藤 信一
取締役		岩崎あやの

#### 北海道昆布漁業振興協会

会長	川崎 一好(ぎよれん)
副会長	森 祐(戸井漁協)
副会長	神田 勉(えりも漁協)
副会長	山崎 貞夫(浜中漁協)

#### 北海道漁業協同組合連合会

代表理事常務	本田 勝実
参事 共販部長	大淵 歩
大阪支店 支店長	川崎 喜久
// 主事	宇田 聖宣

新たに得た知見を青年部活動へ活かしていきます  
地区漁青連大会が開催されました

01

例年、2月から3月にかけて、漁協青年部員相互の研鑽に努める地区大会が各地で開催されますが、今年は新型コロナウイルスの影響で全体の半分の地区で延期・中止となりました。

開催された留萌地区では、MOGURA英会話教室 須藤ヤマト氏を講師に招き、「人間関係を円滑に保つ為のおもしろ講演会」と題したお話を伺いました。行動特性学という性格を分類する話もあり、自分がどの分類にあてはまるのか興味を持って聴く参加者の姿が見られました。



留萌地区で講師を務めた須藤氏は、長年、高校の教員をされていたこともあり、非常にわかりやすい講演でした

見て、食べて、触って感じてもらえる授業を行います

「昆布食育セミナー&ランチ会」が開催されます

02

北海道昆布漁業振興協会では、「五感で感じる!昆布食育セミナー&ランチ会」を4月15日(水)、22日(水)に開催します。これは同ホテルの「北海道喜こんぶフェア」開催記念企画の一環として行われており、2月27日(木)にはメディア向けデモンストレーションを実施しました。当日は事前に公募された一般市民の方々を対象に、ぎょれん職員が講師となり、道内各地の原藻昆布を用いて生産現場や種類を説明した後、各地の昆布だしの試飲を行い、産地によるだしの違いを実感しました。参加者は授業の後には道産昆布を用いた「日本料理 北乃路」の特別ランチを堪能し、五感で昆布の魅力を感じていただきました。



銘柄別に昆布の特徴や味の違いを紹介しました

国内での消費拡大を目的に、消費地でチラシを配布しました

北海道ほたて漁業振興協会は、3月28日(土)に首都圏並びに関西でほたての消費を喚起するチラシ250万枚を新聞へ折り込みました。旬を迎えるほたてを使い、自宅で簡単に作れるメニューを紹介したこのチラシは本誌にも折り込んでありますので、ぜひご覧ください。



北見支店が移転しました

紋別市にあるぎょれん北見支店が、3月23日(月)より新しい建物に移転しました。新たな北見支店は、ぎょれん設計センター設計による新築物件。事務所も気持ちも新たに新年度の業務に取り組めます。

オホーツク管内をカバーする北見支店は、これまで昭和51年に建てられた建物で業務にあたってきました。しかし今回、これまでの場所から500mほど離れた場所に系統ともども移転し、新たなビルで新年度を迎えました。新たなビルは2階建てで、これまで同様、1階には信漁連、共済・共水連も入居しています。



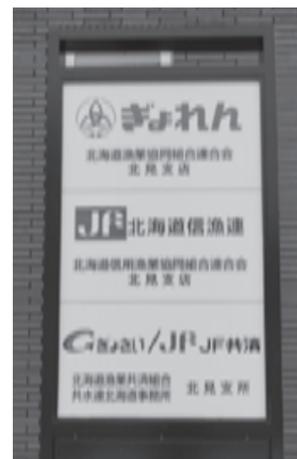
新事務所の一部をご紹介します

紋別港を望むことができる高い土地に移転した新支店。駐車場は30台が駐車可能になりました。

1階部分の外壁にタイル素材を使用しているほか、ぎょれんの応接室では4面の壁紙のうち、1面のみデザインを変えたアクセントウォールを採用するなどデザイン性も配慮しています。

また、新たなビルはオール電化を採用。魚の調理がしやすい、大きなシンクのついたキッチンにもIHコンロが備え付けられています。(右写真)

ぎょれん北見支店  
〒094-0004 紋別市本町3丁目2番15号  
※電話・FAX番号は変更なし



ビルの外には、新たに看板が設置されました(左)。ピカピカの事務所は使い勝手も良好。業務にも合いが入ります(上)



### 小樽

1月から解禁となったにしん漁は、3月25日までが漁期となっています。今年度の管内は豊漁に恵まれ、2,000トンを超える水揚げとなっています。資源管理に対する意識も根付き、漁期を残しての切り上げや、網数制限等の取り組みも行われました。4月からははたて稚貝の出荷が始まり、春漁が本格化してきます。新型コロナウイルスの影響により先行き不透明な状況ではありますが、安全操業で順調な漁ができることを願っています。

### 空蘭

養殖ほたても終盤を迎え、水揚げも残すところ数回となっています。3月上旬からはえび籠・たこ箱漁が解禁され、いよいよ春の訪れが感じられるようになってきました。ほたて貝の耳吊り作業も進んでいますが、近年問題となっているへい死が今年度の漁況にどのような影響をもたらすことになるのか、不安の声も聞こえます。生産者の皆様の安全操業と大漁を切に願っています。

### 根室

春告魚とも呼ばれるにしんの水揚げが始まり、春の訪れをひしひしと感じています。3月23日には管内で約50トン以上のまとまった水揚げがあり、浜では久方ぶりの好漁に活気あふれています。新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、皆様の健康や外食産業を中心とした消費低迷など心配事は尽きませんが、関係者一同これから始まる春漁の安全操業とコロナ禍からの早期収束を祈願しています。

### 留萌

3月よりえび籠漁が解禁となりました。一方、各地でかわいい刺し網漁が本格化し、多い日では10トンのかわいい類が水揚げされています。現在世界的に蔓延している新型コロナウイルスの影響は大きく、管内魚種の流通停滞も心配されます。一刻も早く、コロナウイルスが収束し、正常に回復することを祈念しています。

## 大漁祈願!

# 浜のほつとニュース

NEWS

### 桧山

例年に比べ雪が少なく、春めいた日が続いています。桧山の春漁といえば桜鱒で、3月～5月にかけて主に釣りや定置網で水揚げされます。3月末現在で昨年を超える水揚げとなっており、今後のさらなる水揚げ増加に期待がかかります。春の雰囲気は漂い始めた管内ではありますが、日本海は突然の荒天となりますので、安全操業にご留意の上、大漁を切に願っています。

### 函館

すっかり雪が解け、昼間には時折、上着がいらぬほどの陽気に包まれるなど、春の訪れを感じます。函館市場にはふのり、まつも等の海藻類が各地より上場され始めました。一方、噴火湾地区はほたて加工具の水揚げが本格化し、えび籠漁やかれい刺網漁の操業が始まり、浜は活気に満ちています。大変忙しい時期なので、体調管理と安全操業にご留意いただき、今春の大漁を切に願っています。

### 釧路

ようやく冬の寒さも和らいできましたが、時化が多く水揚げが思うようにできない日もありました。春の訪れとともに、たこ、毛がに、ほつき等の水揚げは終盤に差し掛かっています。一方、にしんの水揚げは本格化してきました。現時点で昨年よりも下回る水揚げとなっていますが、巻き返しを期待しています。2020年度も大漁と安全操業を祈願しています。

### 稚内

本格的な春漁の時期を迎え、日本海地区ではなまこ漁、オホーツク海地区ではほたて漁、たこ漁の水揚げが始まっており、また礼文ではのな漁が解禁となります。オホーツク海地区毛がに籠漁では順調な水揚げが続いており、浜も活気づいています。雪も溶け、温かくなり、これから忙しさを増していきます。安全操業で豊漁となることを心より祈願しています。

### 日高

3月から管内各地でつづ籠漁・えび籠漁が始まりました。時化の影響で、数量は前年と比べてやや少なく、低調なスタートとなっています。漁期は秋まで続いたため、今後の水揚げに大きな期待がかかっています。朝晩の寒暖の差はあるものの、日が長くなり春の訪れを感じさせるこの頃、皆様の安全操業と豊漁を願っています。

### 北見

オホーツクも徐々に春らしくなり、本格的な海明けを迎えようとしています。各地で始まったほたての漁場造成を皮切りに3月中旬からの湧別組合・常呂組合の刺網、3月下旬からは紋別組合・網走組合の底曳網漁、毛がに漁もスタートし、浜では賑わいを見せています。今後も浜の皆様の安全操業と益々の豊漁を祈願しています。



みなさんのお便りをつくるページです。

## なみまる おたより箱



春が来たと思いきや、まさかの氷さわぎ!! 昆布が無事であります様に!!  
(利尻富士町 浜の母さん)

新型コロナウイルスが流行しています。早く、終息すると良いですね。  
(小樽市 宮古登美子さん)

3月に入ってから吹雪く日が多いですね。早く春になってほしいです。  
(利尻富士町 藤原基子さん 70歳)

部屋の換気をしっかりと行って栄養ちゃんとして体調管理に努めたいですね。  
(函館市 ふくふくさん 38歳)

4月から中学生になるので勉強がんばります。おじいちゃんはおんぶの準備を始めています。  
(福島町 新山碧さん 12歳)

早いものですね。もう3月中旬、私の家の土間にはもう福寿草がみごとに満開になっています。とてもきれいですよ。浜では養殖おんぶの間引が始まり、おんぶのれんがあちらこちらで見られるようになりまし。また忙しい時期がやってきたね。みんなでがんばっていきましょう。  
(函館市 若葉さん 69歳)

昨年の昆布漁は、身入りも悪く、その分量が上がらず、さんざんでした。若い組合員の皆さんは、高波をもろともせず昆布拾いに懸命です。その姿に感動して思わずパチリ、シャッターを押させてもらいました。コロナウイルスで不安ですが春を迎える頃には、終息してほしいですよ! 来る夏の昆布漁を楽しみに、いまはジッと我慢です!!  
(浜中町 長内みささん 72歳)



### 編集後記

退職の春を迎えました。広報誌の発行や組織活動を通じて、浜の皆さんと一緒に自分史を綴ってきました。漁青連の地区会長と取り組んだ「漁師さんの出前授業」、世代や組織の壁を乗り越えて突き進んだ「浜のおかあさん料理教室」。笑いあり、涙ありの道りでしたが、主役はいつも「浜の皆さん」。世界は大きな災いの中にありますが、北の海で培われた、ベテランの知恵と若い力を信じています。見せましよう、浜の底力!!  
(阿部)

### 編集部からのお知らせ

## 皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

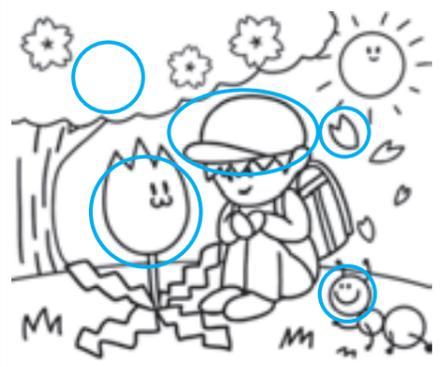
- ①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん4月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)
- ②11ページのシークワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

〈宛先〉4月21日までにお送りください。

(郵便) 〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1番地  
北海道ぎょれん 総務企画部 広報担当  
(FAX) 011-242-3543  
(電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

### 11ページの間違いさがしの答え



## 気を抜くな! 慣れと油断に 潜む海難

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

